

# 大学の世界展開力強化事業 H28取組概要 北海道大学

## 【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

人口・活動・資源・環境の負の連環を転換させるフロンティア人材育成プログラム

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

ASEAN地域における人口・活動・資源・環境(PARE: Populations-Activities-Resources-Environments)の負の連環の解決を担うフロンティア人材育成のため、本学とインドネシア・タイの6パートナー大学(カセサート大学、ガジャマダ大学、タマサート大学、チュロンコン大学、バンドン工科大学、ポゴール農科大学)がPARE大学院教育コンソーシアムを形成し、国際連携教育システムの構築を図ることを目的とする。PAREの負の連環の解決に必要な不可欠な能力として定義した4つの力(フィールド研究力、多様性容認力、開拓力及び課題解決力)を備え、ASEAN地域の発展に主導的な役割を担う人材を養成する。

## 【構想の概要】

PARE大学院教育コンソーシアムにおける協働教育を通じて、分野横断的教育の質の保証、フィールドとラボの教育連携モデルの形成及び異分野専門家集団PARE同窓生ネットワークの形成を促し、もってアジアのフィールドにおいて同地域の発展に資する人材の輩出及びネットワーク形成を図る。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- 「大学院国際共同教育プログラムの効果的な広報のあり方」をテーマに、本学メディア・コミュニケーション研究院の北村倫夫教授を講師として、平成26年度採択の大学の世界展開力強化事業「極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家育成プログラム」と共同で、第5回合同ファカルティデベロップメント(FD)を開催した(3月30日)。
- 平成25年度に構築した「学生による自己評価表(セルフアセスメントシート)の記入」「コンソーシアム大学による共同評価」を継続して実施することで、厳格な成績の管理を行ない、同枠組みの定着化を図った。
- 平成28年9月に外部評価委員会を開催し、これまでの取組の評価を行なうとともに、補助金支援終了後のプログラム運営に関する課題を再整理した。また、フィールド活動における危機管理に留意した計画策定の徹底についても助言を得た。

## ■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

### ○ 平成28年度実施の交流プログラムの内容

- ・「基礎論I、II、III」に加え「基礎論IV」を開講、レディング大学(イギリス)、タマサート大学(タイ)、愛知学院大学から教員を招へいし、本学教員と協働でより学際的な科目提供を行った。
- ・「PAREショートプログラム(3単位)」を「PAREの連環:土地、水、食、エネルギー資源の持続的利用と管理」というテーマで、北海道(平成28年8月30日～9月13日、15日間)およびインドネシア(平成29年2月14日～28日、15日間)で開講し、本学および協定校の学生計68名が受講した。各ショートプログラムの最終日には報告会を行い、7大学の教員で共同評価を行った。
- ・「PARE発展科目」、「PARE専門科目」および「PAREインターンシップ科目」取得のため、インドネシアおよびタイの協定校から6名の学生を本学に特別聴講生として受け入れ、また本学からインドネシアおよびタイの協定校へ学生3名を派遣した。



(タマサート大学教員による基礎論IVの講義)

### ○ 平成29年度に向けた準備状況

- ・平成29年度以降は、協定校にさらなる協力支援を仰ぎつつ、既存の学内共同教育制度を利用し継続することとした。具体的には、本学のサマーインスティテュート事業の一環として基礎論およびサマースクール科目を開講、協定校からの学生受入を継続する予定である。インドネシアまたはタイで開講するスプリングスクールについては、協定校から運営協力を得て平成29年度以降も開講予定であり、平成30年度以降は、本学の海外ラーニングサテライト事業の開講科目として申請を検討中である。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 外国人留学生の受入れ

本学で開講したサマースクールに学生計24名を受け入れ、さらに、学生6名を本学の特別聴講生として受け入れた。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	17	3	24	26	24
学生の受入	18	40	72	73	30

### ○ 日本人学生の派遣

インドネシアで開講されたスプリングスクールに、本学より22名(内正規留学生5名)を派遣した。3ヵ月以上の派遣としては、タイのチュロンコン大学に1名、カセサート大学に1名、また、将来的に派遣先を広げていくことを念頭に置き、本学の協定校であるタイのアジア工科大学に試験的に1名、合計3名の派遣を行った。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備



(国際シンポジウム@ジャカルタ)

- 2016年10月11日2017年2月にジャカルタで国際シンポジウムを開催、本プログラム卒業生および本学OBと在インドネシアの日本企業との交流の場を設け、学生のインターンシップや就職先の開拓を進めている。そのほか、学内の留学説明会を年に5回程度継続的に開催している。
- 本学に設置したセントラルオフィスと各パートナー大学に設置したりエゾンデスクが連携し学生の派遣・受入に必要な手続きを行うとともに、安価な宿泊施設の確保をはじめとした本学からの派遣学生がインドネシアやタイにおいて、本学への受入学生が日本において生活する上で様々なサポートを行った。また、インターネットを利用して渡航前オリエンテーションを行った。

## ■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況・情報の公開・成果の普及

- 本プログラム関連科目のシラバスおよび事前学習のためのe-learning教材は全て英語で公開されており、募集案内および履修案内、ウェブサイトに関しては日本語版と英語版を作成し、教育内容や各種案内、学生の声といった関連情報を広く国内外に提供するよう努めた。こういった活動を通し、学生の国際流動性の強化及び教育の国際通用性の向上を図っている。